

高等教育開発セミナー

3つのポリシー(DP・CP・AP)をどう構築するのか？
～学士課程教育の一貫性～

教育開発支援機構

FD推進センター長 川上 忠重

高等教育開発セミナー「3つのポリシー(DP・CP・AP)をどう構築するのか？～学士課程教育の一貫性～」が、2010年9月3日(金)10:00～17:30に国立教育政策研究所で開催された。本セミナーは、2008年度12月に出された「学士課程教育の構築に向けて」では、国際的通用性を備えた学士課程教育の構築のために「明確な『三つの方針』に貫かれた教学経営」が求められていることに基づき、DP・CP・APの策定と一貫性構築を進めていく業務の実際、想定される問題点、成果を上げるコツ等がワークショップ形式で実施された。

最初に国立教育研究所 高等教育研究部 総括研究官の川島啓二氏から、質保証＝我が国高等教育の最重要課題である旨の説明から始まり、3つの方針の明確化、各教員による、教育目標の策定作業として、FDとしての「3つのポリシー」は、質を改善するための統合的デザインである旨の説明がなされた。質保証とFDとの関連は、意見があると思われるが、学生に対する学びの内容と水準の提示、自己点検評価の質の向上と実質化については、やはり重要課題である。

引続き、3つのポリシーの策定についての講演およびワークショップとして、ディプロマ・ポリシーの策定—ポリシー策定の概説—として、立命館大学 教育開発推進機構 沖 裕貴 教授より、日本の大学が置かれている状況、高等教育の質保証の方向性、学士力の課題、大学設置基準の改正、内部質保証システムと認証評価における自己点検・評価の関係、観点別教育目標の理論等の紹介があり、自動車学校を例として、認知的領域(Cognitive Domain: 知識・理解 思考・判断)、情意的(Affective Domain: 関心・意欲 態度)、技能表現領域(Psychomotor Domain: 技能・表現)の目標策定方法や領域(観点)別に記述された、ディプロマ・ポリシーと各授業の到達目標の対応表(カリキュラム・マップ)が紹介され、カリキュラムマップをも

とに、各授業の到達目標、授業方法、授業内容、成績評価基準を検証することの重要性が示された。

2つ目として、カリキュラム・ポリシーの策定—ポリシーの策定の実際—として、愛媛大学教育・学生支援機構 佐藤浩章 准教授より、DPとCPの明確化の方策、また、到達目標の書き方として、

- ・目標＝授業終了段階で、学生にできるようになってほしい事柄(Goal)を「〇〇できる」のように動詞を使って表現

- ・授業の目的(一般目標)を具体化したもの(数個から10数個)

- ・学生を主語にする

- ・一つの文章に一つの目標

- * 複数の目標があると達成度測定が困難

- ・評価される条件を明示する

- ・評価される基準を明示する

等のワークショップ、簡易版カリキュラムマップおよび愛媛大学で行われている、教育コーディネーター研修会の紹介があった。

最後に、学習者中心パラダイムに依拠したアセスメント・マネジメントの手法として、島根大学教育開発センター副センター長/准教授から、アセスメントの定義(学生が受ける教育経験の結果として、知り、理解し、出来ることを更に深い理解へと発展させるために、複合的かつ多様なソースから情報を集め議論するプロセス)や実践例として島根大学におけるアセスメント事例が紹介された。

今後、学士課程における教育の質保証システムの真の構築のためには、公的質保証と内部質保証の融合が必要不可欠であり、そのためのFD、SD、質保証が連携した統合的デザインによる「しかけ」や「ツール」づくりが重要である。今回のセミナーからあらためて、「各教員による、教育目標の策定」について提案を考えたい。

以上